

各 位

上場会社名 株式会社 ジェイホーム  
 代表者 代表取締役社長 加藤 篤彦  
 (コード番号 2721)  
 問合せ先責任者 取締役経営管理室長 池永 宏之  
 (TEL 03-6430-3461)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年10月28日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	996	14	3	2	236.94
今回発表予想(B)	750	△87	△96	△103	△9,617.88
増減額(B-A)	△246	△101	△99	△105	
増減率(%)	△24.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	806	△64	△62	△34	△4,095.33

### 修正の理由

#### <通期業績予想の修正理由>

わが国経済は、昨年の金融不安に端を発した世界的な金融危機および経済環境の悪化により企業収益や雇用情勢が悪化し、設備投資と内需の低迷、円高の進行、雇用の悪化などの懸念材料により先行きの不透明感は依然として続いております。

住宅関連業界におきましては、金融機関の融資厳格化、地価の下落などの懸念材料は多い中、次第に新設住宅着工戸数の持ち直しの兆しがあるものの、昨年通期では80万戸を割り込むなど、今後も当面厳しい状況が続くと推測されます。このような状況のもと、通期の業績予想を精査した結果、既存事業、スポーツ事業(フットサル施設運営)及び業務提携先である株式会社ダイキョウのノウハウを使った空調関係の工事などについて、次のとおり前回予想から下回る値に修正いたします。

売上高につきましては7億50百万円(前回予想比2億46百万円減)。営業損失87百万円(前回予想比1億01百万円減)。経常損失96百万円(前回予想比99百万円減)。また当期純損失1億03百万円(前回予想比1億05百万円減)となる見込みであります。

以下はセグメント別の業績予想であります。

#### (1)住宅FC事業

当社にとって住宅フランチャイズ事業は安定した収益に大きく貢献する事業であります。しかし昨今の住宅市況の悪化で、資金繰り等が悪化している既存FC加盟店が一段と増加傾向にあり、加盟店の退会、休会を避けることができませんでした。

また、新規加盟店数は0店(前期1店)となり非常に厳しい結果となりました。加盟店の開拓におきましては、未出店地域へ積極的な展開を図る、入会審査基準の見直し等を行うことで加盟店数の拡大を目論みましたが、想定していた以上の景気後退の影響もあり、思うような新規開拓が進みませんでした。

この結果、前回業績予想売上高1億48百万円、営業損失15百万円に対し、売上高1億35百万円(予想比12百万円減)、営業損失22百万円(予想比6百万円減)となる見込みであります。

#### (2)ウェブダイレクト事業

ウェブダイレクト事業におきましても直需案件(戸建新築)の引き合いはあるものの、消費者の購買意欲の減退等の影響により正式受注まで至らず、同様に厳しい状況となりました。

この結果、前回業績予想売上高0百万円、営業利益0百万円に対し、売上高0百万円(予想0百万円減)、営業利益0百万円(予想比0百万円減)となる見込みであります。

#### (3)住宅資材販売事業

住宅資材販売事業におきましては、住宅ローン減税や直系尊属からの住宅取得等資金の贈与を受けた場合の贈与税の非課税措置、住宅版エコポイント制度などのトピックスはあるものの、新設住宅着工戸数の低迷や大型工事の減少が続くことが大きく影響し、依然厳しい経営環境が続いております。

当社の業務提携先である株式会社ダイキョウが持つエアコン事業を、当社の顧客網並びに当社資材販売先に対して販売するという展開が思うように進みませんでした。(前回予想売上高1億58百万円、今回予想売上高1億01百万円、予想比57百万円の減)

昨年から現在に至るまで、販売が好調である火災警報器については、各市町村等の取り付け義務化による追い風により第3四半期までの販売は堅調に推移いたしました。第4四半期も予想通りの販売が見込まれておりましたが、火災警報器の仕入先メーカーによる製品の自主回収の影響で販売が困難なことから、計画を下回る見込みであります。(前回予想売上高2億12百万円、今回予想売上高1億95百万円、予想比17百万円の減)

太陽光発電については、環境に対する関心の高まりを背景に、冷暖房費を1/5に削減することが可能となる当社開発商品「nesta」発表したことにより、ほぼ予想どおりに推移する見込みであります。(前回予想売上高30百万円、今回予想売上高30百万円)

加盟店向けの資材販売は、FC加盟店の退会・休会、また新設住宅着工戸数の減少や1戸あたりの建築単価の低下などの影響を受け、計画を下回ることとなりました。(前回予想売上高2億04百万円、今回予想売上高1億89百万円、予想比14百万円の減)

また、当社のスポーツ事業進出を機会として、遊休地の地主様を中心としたフットサルコート建設工事が2件あり、年内2施設の引渡しを目指しておりました。しかし発注元の資金調達の問題等により、いずれも計画が延期となり、計画を下回る予定であります。(前回予想売上高85百万円、今回予想売上高一百万円、予想比85百万円の減)  
以上住宅資材販売の主なトピックスをもとに、前回業績予想売上高7億73百万円、営業利益14百万円に対し、売上高5億42百万円(予想比2億31百万円減)、営業損失69百万円(予想比84百万円減)となる見込みであります。

#### (4)スポーツ事業

当第3四半期会計期間から新たに株式会社JFCから購入したフットサル施設3店舗の運営におきましては、株式会社JFCの前年度実績を踏まえ、当期の計画を見込んでいたものの、夏場の天候不順が大きく響き、第4四半期においてはフットサルスクールやイベントなどを強化したものの、計画値の挽回は困難となり、想定よりも下回ることとなりました。  
この結果、前回業績予想売上高75百万円、営業利益15百万円に対し、売上高72百万円(予想比2百万円減)、営業利益4百万円(予想比11百万円減)となる見込みであります。

以上